

## 家庭系不燃ごみ中のエアゾール缶類排出実態調査

環境科学課 荒巻 裕二・岡本 拓郎・前田 茂行

### 第 30 回廃棄物資源循環学会研究発表会

本市では、エアゾール缶類は穴をあけて廃棄することとしていたが、穴あけ時の火災事故を防止するため、平成 27 年 12 月から穴をあけず中身を使い切ってから廃棄するようにルールを変更した。しかし、穴をあけないことで中にガスが残ったままのエアゾール缶類が家庭から排出される可能性があり、収集車や処理施設での火災事故の一因になると考えられる。そこで、不燃ごみ中のエアゾール缶類について、平成 24 年度から平成 30 年度にかけて排出実態を調査した。

重量比で家庭系不燃ごみの 2～3%がエアゾール缶類であり、不燃ごみ 1 t 当たりの排出本数は 300 本程度で推移していた。排出割合の増減はみられなかったが、不燃ごみ処理量は増加していることから、市全体で排出されるエアゾール缶類の重量及び本数は増加傾向にあると推察された。排出状態別では、残留物がある缶の排出本数割合は 1 割前後で推移しており、ごみ出しルール変更前後で大きな違いはなかったが、穴あき缶の排出本数割合は、市外からの転入者が多い地区で最も減少しており、ルール変更前から居住している世帯が多いと思われる地区では変わらなかった。ごみ出しルール変更等の周知は、転入手続き時等に行うことは効果的であるが、それ以外の機会できかに周知していくかが今後の課題である。